

学びの部屋 ～3年生～「社会科 火事からくらしを守る」

社会科「火事からくらしを守る」では、自分たちの暮らしを守る人々の働きに関心をもち、火災から地域の安全を守る働きについて調べていきました。火事の様子の写真やイラストを読み取り気付いたことを話し合いました。「どうして消防自動車の到着は早いのかな？どんな取組があるのかな？」「どんな設備があるのだろうか？」「年々火事の件数は減っているね、何か取組があるのかな？」などの疑問をたくさん見出し、「もっと調べたい！」「消防士の人に直接聞きに行きたい！」と学習計画を立てて芝消防署の三田出張所見学に行きました。

消防署では、消防士の仕事や設備について様々なことを聞くことができました。子供たちは、間近で見た消防自動車や救急車に興味津々でした。これからの学習では、本やインターネット等の資料を活用して私たちの暮らしを守る人々の工夫や努力をまとめ、地域の人々との協力や自分たちにできることを考えていきます。

(佐藤 昭夫)



学びの部屋 ～算教科～「聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥」

授業の中でこのような場面をよく見かけます。

教師「この問題がわかった人！」 児童「はい、はい、はい！」

分かった児童は、発表したくて意欲的に手を挙げます。しかし、その裏で分からなかった児童は不安の気持ちを抱えているかもしれません。

「わからないのは自分だけかもしれない。」「わからないと声に出すのは恥ずかしい。」

私は、分かった児童が活躍する中で、分からなかった児童が置いていかれてしまっているのではないかと考えることがあります。学習内容を誰にでも分かってほしいと願っています。そこで授業の中でこのように伝えています。

「話を聞いていても分からないのは、先生の教え方が悪い。だから勇気をもって分からないと言おう。」

「何度でもわかるまで教えるよ」

更に、間違えることを肯定的にとらえるために、教師がわざと間違えることもします。

「先生は間違えてしまいました。どんな間違いをしたのかを考えよう。」

「間違えた」「分からない」を声に出すには学級の雰囲気大切です。児童が楽しく学びに向かう場を今後も作っていきたいと考えています。

(岩崎 実)

芝小人権週間

人権とは、私たちが幸せに生きるための権利で人種や民族、性別を超えて万人に共通した一人一人に備わった権利です。この権利は平等であり、決して奪うことはできません。

本校では毎年2回の人権週間を設けています。今回は全校朝会において、各クラスで作った人権標語の発表、飼育環境委員会による人権に関する発表を行います。また、クラスでは、人権についての道徳の授業に取り組みます。芝小人権週間の間は、各クラスの人権標語は玄関に、個人で作った標語は各クラス前の廊下にそれぞれ掲示いたします。保護者会の日まで掲示してありますのでぜひご覧ください。

人権についての取組では成長段階に応じてテーマを設けています。低学年は「相手の気持ちを考えた言葉遣い・助け合う心の大切さへの気付き」、中学年は「相手を思いやる心・相手の気持ちの理解」、高学年は「自分とは異なる意見や立場の尊重」です。人権週間が人権について考え、友達との関わり方を見つめ直す機会となり、学校生活がより良いものになれば、と考えています。

(齋藤 文子)